

2007年1月運営会議 報告

1月12日(金) 21:25~22:35 運営会議

出席:加藤、杉浦、高橋、山田、木村、垣本、栗山、村上、西嶋、米山、石野、渡辺 以上12名

欠席連絡:深田、塚本、松江

1	行事報告
2	行事予定 2月18日(日) 生物部会かんじきハイク・医王山(担当:村上) 集合場所と時間:8時 見上峠に集合 往復5時間ほどの予定 参加者:現在8名が参加予定。 広 報:中日新聞に掲載予定。
3	当会のパンフの内容の検討(木村) 最終的なゲラの検討を行った。今後、事務局長が最終校正を行い、3月の運営会議で完成品を出したい。(2000部印刷する)
4	総会について(加藤) 会 場:県生涯学習センター 31号室(70名収容) 講 師:富樫 一次氏 テーマ「白山の昆虫について」 今年も、会場の後ろでミニ展示会を行いたい。 (ポレポレからの販売品、木村氏の写真、大塚さんの絵手紙など)
5	環白山保護利用管理協会への入会について(加藤) 当会に団体として入会の依頼があった。入会し意見を言うべきだとの意見も出されたが、当会としては今やっていることを今後もしっかりとやっていくべきだとの意見になり、当面は入会を見合わせることにする。
6	チブリ尾根整備今年の反省について(米山) 1月29日(月)8時より反省会を行う。なお、県には、報告書を提出済み。
7	2006年度の反省と2007年度の課題・行事予定 事務局長がたたき台を作ってきたので、それを基にして2月の運営会議で検討することとする。次回までに読んできてほしい。なお、資料を添付する。
8	その他 ・1/26(金)19:30~ 監 査(山田と加藤が対応する) ・次 回 2月2日(金) 18:30~ 会報の発送作業 20:00~ 運営会議・理事会

<砂防学習会について>

国交省より、3名が来られた。(流域対策課 課長、係長、専門員)

平成16年の豪雨により別当出合の吊り橋が流されたこと、また昨年9月の豪雨により砂防新道の登山道周辺が崩壊したことなどが話されたが、集中豪雨による土砂の流失を堰堤がある程度食い止めているということであったと思う。しかし、今後堰堤の建設を際限なく続けていくのかどうか、今後のビジョンはもちろん明らかにはされないが、課長さんからは堰堤の建設だけでなく、下流で食い止められるものならばそういった方法も考えていくということであった。今後堰堤の建設には、景観上からも一定の歯止めをかけていくべきであり、そういった意味では意義ある発言であったかと思う。

なお、県が建設を担当している堰堤もかなりあり(例えば三谷など)、今後は県との話し合いも必要であるとの意見が出された。

<2007年度の行事予定について>

今年は、ぶなっ子くらぶによるブナの植樹が開始されて15年を迎える。植樹や下草刈りに関わった人たちで、現地に看板を立てることを検討しているということである。

白山が世界遺産の登録リストに入るように、昨年文化庁に4県合同で提案された。可能性がかなりあるということである。当会としても自然保護の観点から登録のための条件などを検討し提案していきたい(例えば白山トンネルの建設計画中止など)。4月に研究チームを発足させたい。

2006年度の活動を振り返って

① 白山トンネルについて

10月17日（火）に、3名で東京の国交省と環境省へ反対要請を行いました。全体としてのらりくらしとした対応であり、一般的な答弁に終始していました。計画はあまり進んでいるようではありませんでしたが、経済情勢も好転している折から、チェックを欠かしてはならないと思います。また、今後は地元への地道な働きかけが大切だと思われまます。午後は、はじめて環境省を訪れました。国立公園内でのトンネル建設にはかなり高い基準を求められることができるということ、私たちの見方になってくれそうです。また、例年のように県へ情報公開を行い、8月下旬に説明を受けました。例年以上に非公開部分が多く、12月末には意見書を提出しました。

② チブリ尾根登山道維持管理作業について

今年も県からの委託を受け、6月から10月にかけて10回にわたり、巡検や草刈りの活動を行いました。特に草刈りについては、参加者をもう少し増やしていく工夫が必要です。また、稜線部については、やはり前日のうちに小屋に泊まっておくのが効率的です。

③ 各行事について

各行事ともほぼ10人以上の参加を得たが、さらに広範な参加を得られるように一つ一つの行事の広報に力を入れるべきであろう。特に生物部会は盛況であり、新入会員も多くありました。ただ、コースの直前での変更もあり、事前の下見の必要性を感じました。子ども対象の行事があるのですが、子どもの参加を増やす必要もあります。

④ 会報及びホームページについて

今年も年4回の会報を予定通り発行しました。1面と最終面のカラー化を図りました。また、1面には季節ごとの絵手紙を掲載しました。企画ものなどもあり、読み応えのあるものになったのではないのでしょうか。写真も多くなりました。なお、ホームページでは全編カラーで読むことができます。ホームページも時々の話題を随時掲載し、随分と充実してきました。

⑤ 会員管理について

会報の発送後、退会を申し出るケースが目立ちました。会員が全体として高齢化していることも気にかかります。なお、会員名簿のデータ化を図りました。行事などの際、有効に活用していきたいと思ひます。

⑥ その他

(ア) 行政との話し合いも何度か行いましたが、対応は非常に良かったと思ひます。当会の考えを拒否するという事は全くありませんでした。NPO法人としての当会の地道な活動が認知されてきているからだろうと思ひます。

(イ) 県が平成19年度から導入予定の森林環境税について、県知事宛に申し入れを行った。税である以上、広葉樹林の所有者にも公益的機能に応じた還元が図られるよう要請を行ったが、しっかりと対応をして頂いた。話し合いは、今後とも続けていく予定である。

(ウ)

2007年度 活動予定 (案)

予 定 日	内 容	担当部会等
3月11日(日)	第18回総会	
4月 8日(日)	雑木林 春の詩PART18	高 橋
5月 日(日)	自然観察会()	生物部会
6月 日(日)	クリーン活動()	事務局
7月 日(日)	チブリ尾根草刈り	米 山
8月18,19日(土、日)	白山登山(会員から募集する)	事務局
9月 日(日)	チブリ尾根草刈り	米 山
下 旬	子ども・秋のクリーン活動()	事務局
10月 日(日)	白山麓見て歩き()	文化・地域部会
日(日)	自然観察会()	生物部会
12月 中 旬	砂防ダム勉強会	砂防担当
1月		
2月 中 旬	かんじきハイク	生物部会

※ 毎月第1金曜日(原則として)に、運営会議を開きます。

※ 会報「しらやま」を年4回発行します。(2月・5月・8月・11月)

※ 今年のチブリ尾根登山道巡視は、以下の日程になっております。ご参加ください。

5月 日(日)、6月 日(日)、10月 日(日)

※ 上記の他に、林道調査も予定しています。

※ スキー場の実態調査を行い、白山市に提言したいと考えているのですが、人手がありません。参加していただける方はいらっしゃいませんか？

2007年度 各部会担当者 (案)

山岳部会	北市 正	<事務局>	
水系部会	松江 勇昭	事務局長	加藤 正現
生物部会	村上 秀明	会報編集長	深田 和人
文化・地域振興部会	垣本 哲夫	ホームページ担当	木村 芳文
ぶなっ子くらぶ	米山 豊	会員動向・連絡担当	山田 博子
白山トンネル部会	栗山 宏人	会 計	菊 正美
林道部会	松江 勇昭		山田 博子
自然解説指導	林 二良		
チブリ尾根登山道維持管理作業担当	米山 豊		
砂防担当	高橋 外男		
20周年担当	渡辺 満		

2007年度の活動に向けて（案）

① 白山トンネルについて

昨年国交省を訪れた際の感触としては、まだ緊急を要する状況ではないと感じられました。しかしながら、一昨年あたりから建設促進側の動きが活発化しており、予断は許さないと思います。具体的にルートが選定される可能性もあります。当会としては、建設しないという選択肢を強く訴えていきたいと思っています。また、白山麓の人々との対話と連携が重要な鍵になると考えています。また、岐阜県側の反対グループとの連携も模索し、反対運動をより広範に盛り上げていきたいとも考えています。

② チブリ尾根登山道維持管理作業について

2007年度も県からの委託を受けることとしたい。特に草刈りについては、広く一般会員からも参加を募ることとしたい。特に、稜線部の草刈りについては、前日から小屋に泊まり、効率的に行えるようにしたい。

③ 各行事について

10名以上15名以内の参加者は、確保したい。また、行事を通して新入会員も増やしていきたいと思っています。各行事は、毎年行われているものが多いですが、マンネリに陥らず、工夫を凝らして、参加者を集めていきたいと思っています。

④ 会報及びホームページについて

今年度も年4回の会報を発行する予定です。表紙については昨年度に続き、会員の方に季節の絵手紙を書いて頂きます。1面と最終面のカラーは、続けていきます。また、広く一般会員の方からの原稿を募りたいと思っています。当会の会員のなかには、さまざまな才能を持った方が多くおりますので、そういった方に依頼をしていきます。皆さんの意見もお聞きしたいと思っていますので、ぜひ、感想をお聞かせください。ホームページについては、より充実を図り、一般の方や会員の方の白山に関する情報交流の場になればと思っています。リンク先も増やしていきたいと思っています。どうぞ、覗いてください。

⑤ 会員数の動向及び会活動の今後について

昨今、会員数が減少傾向にあります。さまざまな事情が考えられますが、会員数の減少は会活動の停滞につながることは間違いありません。この傾向に歯止めをかけるには、一つ一つの行事をきっちりと行い、新入会員を募っていくことが大切だと考えます。そのためにも一人一人の運営委員が会活動への意識を高め、また各部会を活性化していきたいと考えています。自らの足下を強化し、新たな人材の発掘、育成に力を入れていきます。

⑥ 設立20周年に向けて

当会は来る2010年3月に設立20周年を迎えます。3年後を見据えて、何かかたちあるものを残したいと考えます。どのようなことに取り組んだらよいのか、皆さんのご意見を頂戴したいと思います。運営会議の中では、会のこれまでの歩みを検証してみようとの意見が出ています。具体的に、一歩踏み出していきたいと思っています。

⑦ その他

地球の温暖化現象は、年々と私たちに深刻な問題として迫ってきています。そこで当会としても地球に負担をかけない生き方を提案していくことが重要と考えています。また、昨年は熊の出没が大きな問題となりました。木の実がほとんどなかったようです。私たちは、長い目で里山の保全運動に取り組まなければならないと考えています。また、関係する自然保護団体とも連携を深め、白山の自然についてともに考える仲間作りをしていきます。最後に、当会にとっての長年の懸案であるトラストについてですが、今年もふさわしい場所を追求していきたいと思っています。